

## 掲載者の

## 声

## 愛犬マリリン

有賀 暁子

私は犬を飼っている。犬種はロングコートチワワ。名前はマリリン。現在二歳で、戌年の今年は三歳になる。二歳、三歳と言っても、人間と犬とは時間の流れが異なり、犬は生まれて三年で人間の三十七歳くらいに相当するそうだ。子犬は生後三週間でもう歩くようになるのだから、人間の成長とはスピードが違うことが分かる。

犬は生活の中にたくさんの幸せを与えてくれる。マリリンは犬より人間が大好きなので、人にはしっぽをフ

リフリしながら近付き「遊んで〜」とせがむ。犬には興味がない様子で、大体は逃げ腰だ。

お散歩とご飯が大好きで、お散歩では小さな体で長距離走って歩く。一日二回のご飯タイムはあつという間にペロリ完食。

トイレはちゃんと家のトイレスペースでできる。犬は賢いので、しつけ次第で様々なことを覚え、出来るようになる。

寝る時はグーグーいびきをかいて寝たり、仰向けにお腹を出し完全にリラックスして寝ている。まるで人間のような所もあり、かわいい仕草や表情・存在そのすべてが私たち家族を癒し笑いをくれる。

動物から与えられる喜びや癒しには何とも言えない幸せがある。人はふわふわしているものを触ると、脳内からセロトニンという幸福を感じるホルモンも出るそうだ。医療やデイサービス等の現場でもセラピードッグが活躍し、人々を笑顔にしているのもう

なすける。

生き物を飼育するということは大きな責任と労力を要する。しかし、それ以上にかけるがえない時間を一緒に生きている喜びを感じる。マリリンありがとう。

(元NHKテレビ・ラジオ体操インストラクター)

## テレビ奮戦記

井口 昭久

「さーそろそろテレビを見るのははやめなさい」と台所で妻が居間で寝転んでテレビを見ていた子供たちへ向かって叫んでいたのが、子供たちがいなくなった最近の我が家では私へ向かうようになった。叱られ続けると盗み見るようになる。幼稚園児の気持ちがよくわかるようになった。その私が1年半前からテレビを見なければならぬことになった。

NHKテレビの中部地方の番組審議委員になり、放送局へ出かけて意見を述べる役割を負うことになった。1か月の間の番組の感想を述べるのが義務である。報酬も出る。そう、私は必ずNHKのテレビを見なければならなくなったのだ。テレビを見るのはお仕事なのだ。盗み見なくても堂々とテレビを鑑賞できる身分になった。

そのつもりで始めてみると、

批評的にテレビを見るといのは安易なことではないことはすぐに分かった。番組審議の会議で私の意見を聞いている相手は放送局のメンバーである。プロの前で素人の私が批評するのである。医者前で患者が評価するようなものだ。文学を評論するには文学評論家という職業人がいる。医学を評価するには医事評論家がいる。テレビの評論家というのにも存在するらしい。しかし私はテレビの素人だ。

NHKとしては「プロの評論もどきなぞは期待していない。ただあなたの素人っぽい感想が聞きたい」だけなのだ。しかし批評するつもりでテレビを見ていると、良いと思えばどこまでもよく見えて、悪いところが見つければどこまでも悪く見える。私には批評の軸がないので善悪がはっきりする。番組に悪いと思ったところを発見すると、いっばしの評論家になったような勘違いを起す。高揚して会議で「あの番組はつまらなかつ



た」と言ってしまった後で、  
聴いていた放送局の人たちの  
しらけた顔を見ると、いかに  
自分が場違いな場所にいるか  
を思い知らされる。

会議が終わって会議室を出  
る時にNHKの職員たちが扉  
の前に立って鄭重に見送って  
くれる。その時は「穴があつ  
たら入りたいような恥ずかし  
い気持ち」を味わうことにな  
る。その気持ちは家に帰って  
もずっと消えずに、二週間は  
持続する。

そして「もうテレビなんぞは  
見たくない」と思う。

(名古屋大学名誉教授・愛知淑徳  
大学教授)



### なにか変だな

井口 武雄

今、伊那市のどこからでも  
雪をかぶった美しい山を見る  
ことが出来ると思っています。仙  
丈、東駒、西駒の凜とした神々  
しいまでの姿を鮮明に思い出  
しています。凍みる冬だから  
こそその素晴らしい伊那の景色  
です。

先日ある地を訪れた際、里  
山の南斜面の木を切り倒して  
いる場面を見ました。それは  
太陽光発電のパネルを敷き詰  
めるためだということが分か  
りびつくりしました。CO<sub>2</sub>の発  
生をおさえるために化石燃料  
を減らし再生可能エネルギー  
の活用を増やそうと世界中で  
太陽、風、地熱、水素等によ  
る発電のウェイトを高める努  
力をしています。地球温暖化  
は誰もが感じていて、その原  
因は少数の異論は有っても温

室効果ガスのCO<sub>2</sub>の増加にあ  
ることは明らかであります。  
でも里山の木を切り倒してと  
いうのには少し変だなと思っ  
てしまいます。

木や草は太陽の光と水と炭  
酸ガスで炭水化物を作り酸素  
を放出すると小学校で習いま  
した。勿論呼吸もしてCO<sub>2</sub>を放  
出しますが、酸素の放出量の  
方が多いと実験で証明されて  
いるとのことです。

木はまた斜面でもしっかり  
根を張りつめ大雨や地震等に  
よる地すべりを防いでいます。  
枯葉が層を成し大雨の水を蓄  
えて洪水を防ぐ役割も果たし  
ています。太陽光発電は極め  
てクリーンな発電であります  
から空き地や遊休地等を活用  
して大に行うべきと考えま  
す。しかし、昼には大量の酸  
素を放出し環境にとっても災  
害の防止にとっても価値の高  
い里山の木を切り倒して太陽  
光パネルを敷き詰めることに  
はいかががかわかと思わざるをえま  
せん。もしそれがどんどん進  
み伊那の里山が一面黒い太陽  
光パネルになってしまったら

と思うといっても立ってもいら  
れません。経済合理性だけで  
判断することのない人間の英  
知を期待しています。

(三井住友海上火災保険(株)シ  
ニアアドバイザー)



### 留学生が経営を 支える大学の風景

伊藤 喜良

日本が少子化によりさまざま  
まな分野で大きな変化が起こ  
っていることは周知のところ  
であります。私が伊那で少年  
時代を過ごしていたころには  
出生率が高く、この狭い日本  
に過大な人口を抱えてこの国  
はどうなるのであろうなどと  
心配したのですが、現在は  
反対にこのように出生率が低  
い少子化現象はどのような社  
会を生み出していくのだろうか  
と、日本の未来への不安と  
危機感を持つようになってし  
まっています。

少子化問題の直撃を受けて  
いるのが大学です。私が大学  
に入ったころとは大きく変わ  
ってきました。定員割れして  
いるところが続出しているこ  
とはマスコミの報道等でよく  
知られているところで、大学  
の経営者は学生を集めること

に血眼となつています。私は70歳代になりましたので専任教員から外れていますが、

東京の私大でまだ非常勤として在職しています。この大学も学生集めに苦勞しています。が、特徴的なことは、留学生が学生の90%以上であるという点です。経営者は当然のことながら日本人の学生を集めたいのが本音で、専任の先生方に「週1日は高校回り」という学生集めの義務を課しています。ある教授は昨年担当した二百数十校の高校を回り、学生がこの大学に入学したのは二人だと話してくださいました。もちろん非常勤にはこのような義務はありません。日本人学生が少ないので、経営者は担当校から1人入学させたら5万円のボーナスを出すとの「にんじん」をぶら下げたそうです。

専任の先生方も大変で、30代の新任の先生の髪は見る見るうちに白いものが混じってきました。このように日本人学生がほとんど集まらないので、経営を維持するために大

量の留学生を入学させているわけです。

この大学でわたくしは日本史と東洋史の二科目を講義しています。私がこの大学に籍を置いたのは、高校地歴科、中学社会科の免許取得ができる教職課程を新設するための文科省対策のために呼ばれたわけです。しかし認可された後の日本史や東洋史は一般教育を兼ねているために一クラス数百人の留学生を教えなければならぬことになり、日本人は10人にも満たない状況となりました。このため毎年600、700人の留学生に対応しています。

さて歴史の講義を始めると何をどうやって教えたら良いのかわからなくなりまして。彼らは日本の歴史などまったく知らないし、関心もありません。豊臣秀吉や徳川家康といつても「ちんぷんかんぷん」です。悪いことに日本語もろくに話せない学生が多数存在しています。教室内は雑談とスマホのオンパレードという状況です。このような状況は

何れの科目も同様であり、講義中に違う国の学生どうしが取っ組み合いのけんかをしたのだの、非常勤の女性の先生を脅したのだの、試験で厳密に採点し、70%以上の学生の単位を不認定とした専任の先生は「クビ」になったのだの、講師控え室にいろいろの悪いうわさが毎日飛び交っています。

色々悪い風景を描きましたが、一部の留学生はまじめに勉強しており、かつて「ふるさとだより」に書きましたが、夜に一生懸命に働き、昼は歯を食いしばって勉強に励んでいる学生、日本史や東洋史の勉強の仕方を聞きにきたり、講義が終わると必ず板書を消してくださる留学生も存在します。また日本人学生も留学生の影響を受けている学生も多く存在しますが、サポート校から入学してまじめに勉強に励んでいる学生もいます。日本の少子化社会を支える一つの柱は留学生であり、ますます留学生が貴重な存在になつていくものと思われま

私が今いる大学は文科省には評判が悪いのですが、また、外部評価も一回「不可」でした。しかし、産業をつかさどる経産省には評判が良いようです。大学における留学生に対する教育はどのようにするべきかつくづく考えさせられるこの頃です。

私が経験して素材に思うことは、文科省が大学教育・卒業等を規定している項目が現在の留学生には合致しなくなっているのではないかとということ。日本人学生とまったく同じような基準では教育できないような状況が、私の乏しい経験からして言えるのではないかと考えている次第です。

(福島大学名誉教授)



## 天竜川と千曲川

伊藤 延司

北に犀川 千曲川  
南に木曾川 天竜川

信州人なら誰もが知っている「信濃の国」の一節だが、この二つの川は、まったく違うと教えてくれたのは、弟の妻きみ子さんである。

きみさんは、ふるさと佐久の高校を卒業するとすぐ、僕の母が伊那で営む美容院に、見習いとしてやってきた。

初めて天竜川の畔に立ったとき、きみさんは「この川なんかへん」と思ったそう。

どこがどうへんなのか、とっさには分らなかつたが、流れを見ているうちに方向感覚を失い、一瞬めまいを覚えたという。

方向感覚が失われた理由は、すぐに分つた。夕映えを背にして、いま見えている天竜川は、右に流れている、方角でいえば南。きみ子さんが、なれ親しんできたふ

るさとの千曲川は、北に流れて  
いた。

十八歳の少女は、初めて見る  
天竜の真逆の流れに、方向感  
覚を失ったのだった。

きみ子さんから、この話を聞  
いたのは、彼女が母の美容院  
を継いだずつと後、佐久を離  
れて数十年も経ってからのこ  
とである。

恥ずかしい話だが、それまで  
僕は、天竜川と千曲川は同じ  
方向に流れているとばかり思  
っていた。

千曲川は佐久の川上村から  
流れ出し、犀川と合流して信  
濃川となり、日本海に注ぐ。

天竜川は諏訪湖に発し、太平  
洋に注ぐ。理屈では知ってい  
たが、千曲川は北に、天竜川  
は南に流れていることを、体  
で実感したことがない。

きみさんが覚えたてのまゝは、  
理屈でない。生まれ育った土  
地が、彼女の体に刷り込んだ  
感覚なのだ。伊那も佐久も同  
じ信州だが、僕たちの生まれ

故郷の地勢は、はっきりと違  
うのだった。それでも、昨年  
暮れの全国高校男子駅伝では、

僕は佐久長聖の優勝に涙を流  
した。

僕は散歩の時、島崎藤村の  
「千曲川旅情の歌」を、口ず  
さみながら歩く。進行するボ  
ケに、ささやかな抵抗を試み  
ているのだ。宮沢賢治の「雨

ニモ負ケズ」でもいいのだが、  
なぜか「小諸なる」なのだ。  
最近、記憶力が低下している  
妻にも、ことあるごとに暗唱  
させている。

妻が「濁り酒濁れる飲みて草  
枕しばし慰む」まで、無事た  
どり着くと、手を打って喜ん  
でやる。妻も大仕事をやり終  
えたように、嬉しそうに笑う。

しかし、妻も僕も信州人なが  
ら、いまだに北に流れる千曲  
川を見たことがない。いつか

きつと、妻と一緒に千曲川を  
訪ねようと思っているが、そ  
の時、僕たちは、きみさん  
のようにめまいを覚えるだろ  
うか？

(翻訳家・AFP通信日本版サイ  
ト顧問)

ト顧問

### 太極拳で健康長寿を 心がけましょう

大羽 繁



私は七十歳の時現役を引退し、  
八十五歳に成ります。現役時  
代はこれと言った趣味や特殊  
技能を持ち合わせておりませ  
んでしたので、エブリサンデ  
ーになつてからは、一日の時  
間を持って余し、毎日をどう過  
すか、如何にしたら充実した  
時間を持つことが出来るか悩  
みました。

たまたま区の広報に掲載さ  
れていた、色々な行事のうち、  
あまり金のかからない太極拳  
と水泳を選んで参加しました。  
水泳の方は、さぼりがちでし  
たが、太極拳の方はクラブに  
も加入し練習を重ね、指導員  
としての資格も取って、教え  
る立場にもなり、只今は大小  
四つの教室を主宰するようにな  
りました。将に「七十の手

「習い」「継続は力」だと思いま  
す。

太極拳を始めて、これを続  
けてきて、大変良かったと思  
います。多くの人々との出会  
いに恵まれ、充実した時間を  
持てるようになったこと、健  
康の維持増進がはかれたこと、  
そして何よりも、残りの人生  
に大きな夢と希望を与えても  
らったことです。

毎朝近くの公園で、ラジオ  
体操の後高齢者仲間と楽しん  
でいる太極拳は、昨年暮れの  
大晦日の日にクラブを立ちあ  
げて丁度満十年になり、クラ  
ブの活動としては、この間一  
日も休むことなく練習を重ね、  
連続練習三六五二日を完全達  
成しました。ちなみにこのグ  
ループの平均年齢は七十七歳  
女性の最高齢は九十六歳、男  
性は九十歳の仲間も毎朝参加  
し太極拳を楽しんでいます。

太極拳は、ゆつくりした運  
動ですが、日頃使わない筋肉  
を使い、息の長い呼吸法を心  
掛けるので、中高年からの健  
康の維持増進には最適で、一  
生楽しみます。医学的にも高

齢者の転倒予防、バランス、  
柔軟性、筋肉強化、心肺機能  
を高め、血圧を下げる等良い  
ことづくめの効果があること  
が証明されています。  
これからも多くの人々が太  
極拳に参加してもらおうよう努  
力を続けたいと思います。

(東京長谷人会相談役)



## 東北日本と西南日本

蟹澤 聰史

日本列島は南北に細長く伸びた弧状列島なので、いくつかの地方に分けて呼ばれる。中部地方とか東北地方などの他に、もっと大きく東日本、西日本という場合もある。どこにこの境界があるのだろうか。一般には北海道から中部地方まで東日本と呼ばれている。天気予報では北海道と東北は北日本という。

さらに、日本列島の地質構造をもとにした東北日本と西南日本という区分もある。新第三紀以降の地質は、諏訪湖の南西を通る糸魚川―静岡構造線の東側に位置する日本列島のほぼ中央部を「フォッサマグナ地域」、さらにその北東部を「東北日本」という。もう少し古い地質時代を中心にとすると、西南日本は茨城県から福島県白河付近を経て、山形県にいたる「棚倉構造線」ま

で続き、その北東部が東北日本となる。もともと日本列島はジグソーパズルのように、いくつかの地質体の集まりからなり、三波川帯、領家帯といった西南日本の帯状配列は、棚倉構造線によって断ち切られている。

ところで、地質とは関係のない風習や文化などにもこうした境界と関わりがあるのは興味深い。例えば大晦日にはブリを食べるかサケを食べるかはこの糸魚川―静岡構造線が境界のように思える。故郷の伊那地方はブリ派だ。けれども、丸餅か四角い餅か、あるいはうどんと蕎麦のどちらが主流なのかという話になると、そうでもない。日常生活に関係の深い電気の周波数は長野県では50ヘルツで西日本だ。中央本線はJR東日本、飯田線はJR東海なので接続が悪く、東京から伊那へ帰るときはほとんどJRを使わなくなってしまう。

古来、福島県の白河以北、みちのく（陸奥）と呼ばれた地域は、都から遠く離れた文

化果つるところで、「白河以北一山百文」などと揶揄される一方、歌人は数多くの歌枕の地域として憧れ訪れた。西行らの歌に心酔した松尾芭蕉も『おくのほそ道』の中で、白河の関を越えてようやく「…旅心定まりぬ」と述べている。古の文化人は、棚倉構造線が東北日本と西南日本との地質境界とは知らなかったが、偶然の一致なのである。

（東北大学名誉教授）



## ひと味ちがう？ 春富中の先生

上岡 実弥子

私には、バスケットボールが得意な甥がいます。

私の母校『春富中学校』バスケットボール部で活躍し、長野県代表になりました。

甥が成長できたのは、本人の努力に加え、家族が“一丸となって”応援し、さらに、良い指導者の方がいらしたからだと思います。

『指導者』というと、昭和の時代は『知識・技術を教える人』『エライ先生』というイメージがありました。ただ、私がいた頃の春富中の先生はひと味違いました。担任の堀田先生をはじめ、わりと生徒の自由にさせ、生徒自身が面白がるよう配慮してくれた先生が多かったと思います。

例えば『公民』という科目。

先生の話は面白いのですが、私には無味乾燥なつまらない

科目でした。そこで、私は『国会』『裁判所』などをマンガにし、ノートに描いて遊んでいました。先生に出す日誌は、何枚も紙を貼り足し、その日の出来事を長編ドラマ風に仕立てて遊んでいました。ブラスパンドでは、オリジナルの練習用スコアを作ってみました。

堀田先生は、私が何をしてもニヤニヤしているだけでした。褒めない代わりに、いい感じで『放任』する堀田流。おかげで三年間、伸び伸び過ごせたと感じます。中三の通知表に「三年間、いろんな事をやったなあ」と書いていただいたのが嬉しく思い出されます。

弊社は、人財育成を行う会社。『人を育てる』『会社を伸ばす』のが仕事です。

今や『エライ先生』の話を黙って聞くという手法は流行りません。『興味を持たせる（面白がらせる）』『本人がその気になる』『指導…まさに、春富中の先生と同じです』『やらされ感』を無くし、『当事者

意識』を持たせるため、日々、様々なサービスを創造しています。

もし堀田先生がいたら、「まだ、いろんな事をやってるなあ」とニヤニヤしてくれるでしょう。

はからずも、指導・教育の仕事に就いた教え子としては、「堀田先生と教育談義ができれば、楽しいだろうなあ」と思う今日この頃です。  
(株)キャライット代表取締役



### 伊那市と新宿区をつなぐ

川村 利美

私は伊那市で育ち、伊那弥生ヶ丘高校卒業後、東京都新宿区市ヶ谷にある正派音楽院で生田流箏曲、三絃の専門教育を受けました。その頃から新宿区と縁があったのだと思います。卒業後、実家の明治屋で教室を開き、稽古をしながら、NHKの事業の一環で、若い和楽器演奏家を育成する機関のNHK邦楽技能者育成会で学びました。全国から、色々な流派の様々な和楽器のプロの演奏家を目差す、選ばれた若者達が集まっています。毎週一回伊那から東京に通っていました。卒業後すぐに尺八演奏家である川村泰山と結婚し、今度は東京から伊那に毎週お稽古に通う生活になりました。この40年余りの年月には、新宿区とご縁を感じる場面は多々あります

が、今回は今年になってから開催したコンサートについてお話しします。

二〇一八年一月二十八日の日曜日に伊那市のいなっせホールで箏(こと)と三絃(さんげん)のコンサートを開催させて頂きました。

二〇一六年「まちなかJapanニッポン音楽隊がやってきた」として様々な場所で、不特定多数の聴衆を対象に演奏活動を行うプロジェクトを、公益財団法人正派邦楽会の事業としてスタートし、今までは東京近郊で公演してきました。正派邦楽会は新宿区市ヶ谷に本部があり、私共が所属しています。

今回は「まちなかJapan+コンサート」として、正派副家元と、若手のまちなかJapanメンバーを招聘して、伊那を中心に活躍するTeam伊那を中心に地方で初めてのコンサートでした。舞台と聴衆が一体感を覚える良いコンサートになったと思います。Tokyo2020はスポーツの祭典と同時に文化の祭典としての役割を担っている

ます。正派の本部のある新宿区と伊那市は友好都市でもありますので、その絆を深めて参りたいと思っています。

(箏曲演奏家)



### 東ティモールのホストタウン伊那市

北原 巖男

伊那市内の小学生を含む全国の小学校の皆さんの投票を

経て、二〇二〇東京オリンピック・パラリンピックのマスケットが発表になりました。小学生の皆さんのように元気いっぱいのもても可愛いマスコットの誕生です。夏には名前も決まります。いよいよ二〇二〇年に向けてフル回転での活動が開始されます。

これに先立つ昨年七月七日、伊那市は内閣官房オリンピック・パラリンピック事務局から東ティモールのホストタウンに登録されました。伊那市と東ティモールは、オリンピック選手やパラリンピック選手の伊那市での事前合宿をはじめ、様々な人的・経済的・文化的な相互交流を図って行くことが期待されます。そのためには、何よりも伊那市民の皆さんが東ティモールを身近に感じて、ホストタウンに対する理解と協力を示され、積極的に取り組んで行かれることが不可欠です。

そんな東ティモールは、二〇〇二年五月にインドネシアから独立を回復したアジアで一番新しい小さな国。太陽

がいっぱい、平均年齢18歳の若さがいっぱい、笑顔もいっぱい、平和の中で国づくりの真っ只中にあります。でも私たちにとって、東ティモールはまだまだ馴染みの薄い国と言わざるを得ません。

こうした中、伊那市は、「東ティモールを知ろう！」と題する伊那市役所ロビー展を開催して市民の皆さんに少しでも身近に感じていただけるよう努めたり、東ティモール高校生10名の来伊を歓迎、市民の皆さんの協力の下、ホームステイや会社訪問、そば打ち体験、高遠中学校訪問等の温かい交流を積極的に実施して来れています。



マスケットも活動を始める二〇一八年。市民の皆さんに東ティモールを一層親しく感じていただけるよう、伊那市当局の皆さんと一緒に同国の発信・交流促進に努めて参りたいと思います。何時でもお声かけください。何処でも喜んで出前教室等に飛んで参ります。

(一社)日本東ティモール協会会長



## 「戸台」という地名 —入野谷紀行 9—

北村 健治

長谷地区「戸台」を歩くよ

うになって半世紀にもなるが、「戸台」の地名の謂れを詳しく聞いたことがない。どんな意味があるのだろうか。地名の多くは『日本地名学』『地名の語源』『日本の地名』など、地名を解説する数十冊の書籍や事典類を、丁寧に始めるとなかなか大仕事になりそうである。そこで「戸台」に縛って大雑把に見ると、「戸」は「ト」または「へ」と読む。「ト」の意味は、湖沼、場所、狭い所、「トー」は、峠、尾根、平坦地とあり、「台」…「ダイ」は、段丘・台地・丘・平頂の山、土地の区画の名と、概略説明されている。「へ」と読む例については、ここでは省略する。

地形図を見ながら改めて「戸台」周辺の地形を観察して、これらの意味を当てはめてみると、赤石山地北部の過去の断層活動に由来する地形(方向性の強い谷や尾根)の存在を読み取ることができる。黒川・戸台川の強い東西方向、小黒川や穴沢の南北方向(わずかに北北東—南南西方向に

傾く…これは化石を産出する戸台層の分布方向でもある)、この二つの強い方向性のある谷地形が交差するところ、小黒川と戸台川とが合流する地点に向かつて、東方から西方に延びて合流点で消滅する、この尾根地形の先端手前がかなりくびれて、断層鞍部を形成しているあたりが「戸台」と呼ばれてきた中心地と考えられる。この尾根上に山間地では貴重な平坦地がわずかにできていて、一角に秋葉神社が祀られている。

この地域を生活の場として選んだ古代の祖先たちは、どのくらい昔のことか、誰言うとなく「トダイ」と呼ぶようになったのではなからうか。その後文字が使われるようになると、「戸」と「台」の文字が当てはめられて表記されるようになったのだと思われる。長野・山梨・静岡の三県にまたがる、いわゆる赤石山地には「戸台」のほかにも、「戸倉」「戸中」「戸口」「戸草」などの地名と山名が八件ほど存在する。それぞれの謂れについて

ても別の機会に考えてみたい。『地名よみがな辞典』を開いてみると、「戸」…「ト」で始まる地名は、「戸倉」「戸中」「戸口」などを含む69種120件を数えることができる。

「戸台の化石」保存会は、毎年六月に三峰川石ころウォッチング、八・十月に化石採集会を企画実施している。

2018015TK 青梅にて。  
(「戸台の化石」保存会名誉会長)



旧長谷村 1974 (S49) 年作成地形図を使用(白線は500m)



### 還暦を迎えて

木下 嘉隆

孔子は四十にして惑わなかつたそうだが、私は六十になつてもそのような心の状態に到底達せられそうにない。伊那市ふるさとだよりに日本人の寿命が一九六四年の東京オリンピックの頃より20%も伸びているのだから実年齢を八掛けて生きて行きたいと述べた。残念なことに精神的成長のレベルも八掛けしているようではない。還暦という人生の節目は老後のことも含め人生について色々と考えさせてくれるようだ。

昨年の秋、高専と大学の還暦同窓会に参加して来た。高専は39年振り、大学は35年振りに会った学友もおり、美味しいお酒を飲みながら懐かしい思い出話や馬鹿話で大変盛り上がった。特に、高専は中学卒業後の2年間を全寮制の四人部屋で過ごし、同じ釜の飯を食べる風呂も一緒に入り、5年間同じ教室で学んだ仲で

あり格別な思いがある。皆、外観はかなり老けたものの鬼に角気持ちが若いのはとても驚いた。お陰で素晴らしい還暦の思い出とこれからもうひと頑張りしようというエネルギーをもらって来る事ができた。

六十を目前に胆嚢摘出手術をした。自覚症状が無かったのだが、胆石がすでに13mmに成長し三個もあったのと胆嚢壁がかなり炎症を起こしていたので元気な内に摘出手術をするという判断をした。腹腔鏡下手術は患者への負担が小さいといえ全身麻酔による外科手術は生まれて初めての経験であり、手術前に神経質になり過ぎて家族に迷惑を掛けてしまった。子どもの頃痛いことには滅法弱かったが、六十になった今でも何も変わっていないかったようだ。五日間の入院中、毎日妻と子どもたちが入れ替わり見舞いに来て話し相手になってくれた。家族からエイリアンのようである事を考えているのかわからないことがあると言われた。思

考や行動パターンが家族とかなり違っていたことに今更ながら気付いた。また、これまでの人生を振り返ったり今後のことを考えたりする時間をたくさん持てたし、家族全員で成し遂げたい目標を考えることもできた。

母は長年難病を患った末、還暦の誕生日の一週間前に突然亡くなった。父が亡くなった丁度、四ヶ月後のことであった。遺言も別れの言葉も何も無かった。還暦を目前にどんなことを考え、どんな思いで旅立ったのだろうか。話し好きの母はさぞかし私の妻や子ども達に会いたかったことだろうと思う。私は母や妻のお陰で幸いにも還暦を迎えることができた。健康であることに感謝し健康でさえいれば何にでも挑戦できることを改めて肝に銘じ頑張っていきたい。

(マイクロンメモリジャパン(株) 代表取締役社長)



### 下殿島・洞のおさ姫さま

河野 實

下殿島の土蔵つとくらの東の方に洞ほらという小集落がある。下殿島と田原を分けている大沢川の上流である。

このエリアは非常に神秘的なところだった。実家の近くの堂庭を通つて、山岸の道を南に進むと崖下に土蔵から上がってくる坂道があった。そこを洞口といつた。洞口の山の中には、蚕玉こぼろ様の祠があり、毎年初夏に蚕玉祭りが行われた。養蚕が盛んなころは、盛大な祭りで露天商が店を連ねた。

その洞口からさらに坂道を数百メートル上がったところに、奇妙なお堂とあずま屋があった。ここでも十一月に祭りがあり、露店が並んだ。この祭りが、おちようを祀るものだった。平成四年に下殿島区制100周年記念に出版された「下殿島区誌」の長姫縁起を読んで、おちようと長姫の

ことを知った。幕末の文政六年、京都御所に仕える公家に長姫が生まれた。しかし、嫡子でもなければ庶子にさえなれなかつた子だった。故に、乳母おちようとともに数えの七歳で東国に流された。その都落ちの途中に、なんとわが下殿島の洞に身を寄せ、病弱な長姫の快復を待っていた。しかし、長姫は当地で息を引き取ってしまった。

誕生から付き添っていた乳母のおちようは、見る影もなく痩せ細り、十一日後に、観音菩薩像を抱いて自害して果てた。二人が亡くなって一ヶ月後には、六部と名乗る男が京都からやってきた。男は二人の死を確かめても京都に戻らず、二人の墓前で餓死していた。おちようの許婚者ではないかという噂が立った。

後に、この話を聞いた西春近小出の深妙寺住職が、おちようと長姫のために、洞の地に末寺として薬師堂を建立した。戦後に薬師堂の堂守が亡くなつて、荒れ放題になつて

いるという地元住民の声を聴いた深妙寺が境内に移築することになった。

それが現在深妙寺境内にある「長姫堂」である。

堂内には、金色に輝く長姫の位牌が右側に、おちようとお六部の位牌が並んで左側に祀られている。三人の御霊は、こうして丁重に供養され、彼の地で洞と深妙寺を行き来しているようである。

(ジャーナリスト・ノンフィクション作家)



西春近小出にある深妙寺・長姫堂



下殿島・洞にある史蹟・長姫堂跡の石碑



長姫（左）とおちよう（右）の墓石は洞から深妙寺・長姫堂に移され、丁重に祀られている。



長姫堂内にある長姫の位牌（右）とおちようとお六部の位牌（左）

### 戦争を語りつぐ

後藤 俊夫

いやな雰囲気がただよう年明けとなった。核・ミサイル開発を進める北朝鮮に対してトランプ米大統領は「戦争計画」の準備をしているという。

核のボタンも「手元」にあると相手は言っている。是非とも、戦乱を招くような暴走はしないでほしい。

一月九日。拙作「語りつぐ伊那谷の戦争―命ありて」と「おじいちゃんの季節」の上映会が開かれた。於 いなっせホール「まほらいな伊那市民大学生」約一五〇名の皆さんに見ていただいた。

「命ありて」は、勤労動員生徒の「証言」が中心。昭和十九年八月から翌二十年二月まで、伊那高女（現 弥生ヶ丘高校）の四年生一七〇名が、名古屋の三菱重工・航空機製作所に出動を命ぜられ、「ゼロ戦」戦闘機の製作工場に配置された。

やがて、ここは米軍の執拗な攻撃目標となる。敗戦の色濃くなった昭和二十年三月、遂に一人の死亡者が出た。飯島米子さん（15歳）が爆死したのだ。

引率責任者だった白鳥伝先生は、死亡した生徒の霊を母校で弔いたいと会社側へ五日間の休暇を申請。すんなりと会社側が許すはずがない。悪戦苦闘の末、ようやく生徒全員を故郷に帰すことができた。

淀川校長は、この白鳥先生の英断を支持し「今後は、私の責任で生徒が殺されるようなところへは戻さぬ」と決心。頑張った。早く帰すよう会社側の督促にも応じなかった。白鳥先生は、自筆の「動員日記」に次のように書いている。

「戦争に非協力的といわれて、憲兵隊の厄介になるようなことがあっても、生徒のためならば・・・」と。淀川校長には名古屋から逃げ帰ったという避難や非国民、不忠者との誹謗があったという。しかし、何と言われようと、生徒を二度と名古屋に戻

さなかつた教育者たちは、命をかけて教え子を守っている。なんと美しい話か。私のふるさとに、こんな素晴らしい教育者がいたことを誇りに思う。ここにこそ、本当の「教育」を見た思いだ。

「おじいちゃんの季節」は、認知症がテーマ。いま六十五歳以上の四人に一人が「認知症」、もしくはその「予備軍」といわれている。特に急増しているのが、アルツハイマー型。一度かかると正常な状態には戻れない。

映画では、薬物以外の様々な療法を紹介。とくに回想療法（若かつた頃の体験や見聞きした出来事を回想して、脳を活性化させる療法）。主人公（85歳）は、目先のことは忘れがちだが、少年時代に遭遇した「東京大空襲」を鮮明に覚えていた。一夜にして十万人が死亡。炎のなかを逃げ回ったあの悲惨な体験を数十枚の「絵」に書いて展示。つらく悲しい思いを「地域住民の集い」で語った。「いま世界のいたるところで、悲惨なテロ

や民族紛争が続いています。私たちが平和を守るために、先人が築いた歴史に学び、戦争の記憶を風化させることなく次世代へつなげていくことが大切だと思います」と。

近年、戦争への危機感がますます高まっているのではないかと。世界の大多数国が締結した「核兵器禁止条約」。唯一の被爆国日本は参加を拒絶した。

ICANノーベル平和賞授賞式でのフィン事務総長の「核兵器の終わりか、われわれの終わりか・・・」の言葉が胸にしみみます。

(映画監督)



## 水牛「イーナちゃん」その後

白井 温紀



自然保全を目的に、北海道で酪農を始めて五年目になります。すぐ近くに十勝海岸湖沼群という貴重な海岸草原や湿原が広がり、海沿いには高山植物のガンコウラン、少し内陸に入るとミズゴケやワタスゲも見られます。牧場ではブラウンスイス牛とイタリア水牛を飼育し、搾乳をして、フレッシュチーズを作っています。

水牛は現在、日本では家畜扱いされおらず鹿や熊などの野生動物と同じのため、牛のように生乳を販売することができません。保険にも入れないので、獣医さんと呼ぶと高級ペット並みのお金がかかります。それでも、ケガもなく無事に過ごして来られました。

また、水牛と言うと、東南

アジアや沖縄で水に浸かっている農耕用の水牛を思い浮かべる人も多いようですが、昔々に使役用と乳用に系統が分かれたそうで、今では、イタリアに追いつくと、世界の寒冷地(ドイツ、カナダ、イギリス、スウェーデンなど)で乳用の水牛が増えているそうです。

さて、二年前のこのお便りで、「イーナちゃん」と命名した水牛の赤ちゃんの話をしましたが、イーナちゃんはすっかり大きくなり昨年タネつけを終えました。分娩は今年の秋の予定です。いよいよイーナちゃんのミルクでチーズが作れるでしょう。わが湖水地方牧場では、水牛はモツツアレラーズが主力商品ですので、出来上がったら真っ先に、伊那の皆さんに真っ白なモツツアレラーを召し上がって戴きたいと思っています。

振り返れば、庭づくりをしながら、五十歳を過ぎてから「自然保全」と「酪農」という二つの新しい仕事を始めたので大変でしたが、多くの

方々に助けられ、進化し続けることが出来ました。五頭で始まった牧場は、現在三十六頭となり、昨年は、「アニマルウエルフェア」という「家畜にやさしく、食卓に安心を届ける」国内初の認証をいただくことが出来ました。皆様、ありがとうございます。また、ご報告させていただきます。

(ガーデンデザイナー)



伊藤三千人「五郎山(勝間にて)」

## 伊那っぺいいな

鈴木 福



伊那のみなさん、お元気ですか？僕は中学生になり、新しいお友達も沢山出来、好きな野球の部活も楽しみながら、仕事も勉強も頑張っています。

昨年はNHK連続テレビ小説「わろてんか」に出演。ドラマや映画の仕事以外にも、全国音楽コンクールの司会や東宝ミュージカル「ビッグファイッシュ」出演など色々な仕事にも挑戦しました。

昨年の十月二十九(フク)日、ファンツアー第二弾が開催され、僕の第二のふるさと

の伊那を訪れました。

まずは母方のご先祖様のお墓のある常圓寺にて座禅体験。膝が痛かったですが、良い体験になりました。座禅の後には、住職の角田泰隆さんからありがたい話も聞きました。伊那に住んでいる大伯母さんは煎茶道方円流の長野県支部長をしていてツアー参加の皆さんにお茶（玉露）とお菓子（高遠まんじゅう）のおもてなしをしてくれました。座禅後の体に染み渡りました。

小さい頃からよく行っていた「トマトの木」にて昼食。僕のベンチアート（普段は図書館などに設置）が特設され、撮影会になりました。伊那市からツアー参加の皆さんにトートバックとりんごのサブライズプレゼントもあり、親戚のみはらしファーム山口ぶどう園からの葡萄の差し入れもありました。

僕に合うと言われているパワースポット「分杭峠」のゼ口磁場は赤ちゃんの時に連れて行ってもらったようですが、またパワーをもらってツアー

バスは帰路につきました。

東北や九州からの参加者もいて、全国のファンのみならずと自分のゆかりのある伊那市めぐりをできてとても楽しかったです。やっぱり伊那っがいいな。

（俳優）



### ぶらりと峠や里山集落を歩く

―五感でとらえ保全活用のプロジェクトに参加―  
その情報は、地域公民館を拠点に奥山・里山ライブラリ―の活用

田畑 貞壽

二〇一七年十一月二十六日に伊那谷自然環境ライブラリ―の開設10周年を記念して、「伊那谷に広がる 自然文化とそれを支える暮らし」をテーマにフォーラムが開催されたので参加しました。南アルプスを中心に登録されたユネスコエコパークやジオパーク

に関連するグループの皆さんや、市民、専門家の皆さん55名ほどの方々が参加されました。話題になったのは、伊那市域にみられる峠や里山での暮らしと伝統で、地形・地質や植物・野鳥・昆虫などの生き物とのかわりあいや、人々と集落の歴史や食文化などに話がおよび、意見交換も行われ有意義なひと時となりました。

話題になったのは、伊那市域にみられる峠や里山での暮らしと伝統で、地形・地質や植物・野鳥・昆虫などの生き物とのかわりあいや、人々と集落の歴史や食文化などに話がおよび、意見交換も行われ有意義なひと時となりました。

た。

白鳥市長さんは冒頭のあいさつの中で、ライブワークとされている峠と地域集落の関係性について触れられ、三峰川流域に見られる42か所の峠の存在について話されました。地域の自然や生き物、人の暮らしについて、市民や行政、専門家等が一緒になって保全活動や活用の場を広げていくことが必要だと感じたところです。

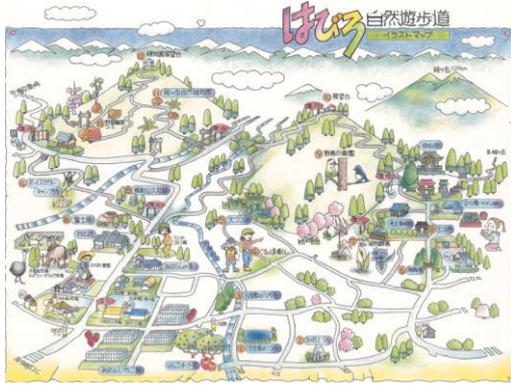
話題提供者の百原新氏（古生物学・緑地環境学 千葉大学大学院教授）からは「旧石器時代から里山時代の人と植物の関係史」について、茅野恒秀氏（環境社会学 信州大学人文学部准教授）からは「峠の道 ―奥山と里山の保全活動―」と題して、興味ある事例報告があり、今後、峠と地域の里山をどのように保全・活用を進めるかなど、さまざまな提案がありました。

翌日、話題となった峠や集落を見ようと、分杭峠をはじめ、高鳥谷山から火山峠、杖突峠から入笠山、金沢峠・芝

平峠を越えて山頂にたどり着くいくつかの峠越えを体験しました。また、みはらしファームに広がる諸施設や経ヶ岳自然植物園（旧権平峠）、小黒川西駒登山口の桂小場の整備状況も確認することができました。

長谷にある中央構造線公園（中央構造線溝口露頭）の再整備の必要性や山室川をのぼる法華街道の道路整備の必要性、入笠山自動車道から杖突峠までの説明板や道路の案内板の整備など、エリア全体の運営管理が必要になっているように感じました。

2日間の滞在を終え、伊那の自然文化的宝物を保全活用できる新たなルールづくりの必要性を感じました。具体的には、竜東・竜西それぞれの里山や奥山のコアになる場所の生態系保全を前提とした運営管理の仕組みづくりを行政、地域住民、団体、専門家などの皆さんの協働プロジェクトとして進められることが考えられます。100年後の子どもたちのため



みはらしファーム周辺と経ヶ岳自然公園

にも、「高遠ぶらり」の活動を参考にそれぞれ地域にふさわしい手法で、奥山・里山ライブラリーを整備してはと夢を見ていました。

以上、フォーラムで意見交換された内容と、具体的な地域をあげ、簡単ですが参考までまとめてみました。

\*参考資料 伊那市教育委員会伊那市立図書館 高遠ぶらり（屋根のない博物館を楽しもう）

（千葉大学名誉教授）



千代田湖



分杭峠と長谷の露頭中央構造線公園（中央構造線溝口露頭）

### 戊辰戦争から百五十年

中村 彰彦

今年、明治維新の開幕を決定づけた戊辰戦争から百五十周年の節目の年である。私も記念の講演を頼まれて、会津若松市、仙台市、福島市、白河市その他へ出掛けねばならない。

右の都市はいずれも戊辰戦争の舞台となった土地だが、信州との関わりでいうと、松代藩真田家の部隊が新政府軍の一員として会津藩領で戦闘に参加している。

慶応四年（一八六八）閏四月二十一日から二十七日にかけて、越後国魚沼郡の小出島（新潟県小出町）に進出した松代藩士蟻川賢之助は、会津藩の飛地領であるこの地のある民家を改めるうち、みごとに自刃して果てた会津藩士の遺体を発見。障子戸に、みごとな辞世が書きつけられているのに気付いた。

筒音に鳴く音やすめしほと

とぎす会津に告げよ武夫  
の死を

輪形月

胸を打たれた賢之助は、  
「辰閏四月下旬 小出島の戦  
ひにみまかりし敵ながらやさ  
しきもののふの心根を弔ひ  
て」  
と詞書して返歌をこころ  
みた。

ほととぎす魚野川辺の夏風

永久に伝へよ波騒の声

その民家の人々に迷惑が  
からぬよう筆名で辞世を詠  
んだ「輪形月」もこの人も、「も  
のあはれ」を知る武士であ  
った。

それにしても「輪形月」と  
は何者か。やがてそれは、望  
月武四郎二十四歳のことだと  
知れた。これは信州に多い姓  
だから、望月家の祖は高遠出

身で保科正之に仕え、ともに  
会津入りした者であろう。

これらの和歌が会津若松市  
の人々に知られたのは、昭和  
六十三年（一九八八）になっ  
てからのこと。武四郎の「会  
津に告げよ」との切なる願い  
が会津に届くには、百二十年  
かかったことになる。

（作家）



### 伊那谷の「中馬」と 景観街道

中村 三郎

先日市役所発行、観光ブッ  
クの中の「古の街道図」をみ

た。  
 伊那は何本もの街道が交差する要衝の地という記載があり、改めて三州街道・権兵衛街道・秋葉街道を認識し直した。  
 ふるさとを離れ社会人となつた頃だつたらうか、長谷川一夫主演の「勘太郎月夜唄」という映画と、「影か柳か勘太郎さんか、伊那は七谷糸ひく煙・・・」という唄が流行していた。「伊那」と「七谷」という表現をきき、懐かしく、ふるさとのことを思い出していた。その後帰省した折三州街道(伊那街道)の宿場であつたという「伊那部」と近くの「春日城址」を訪ね、そこで「勘太郎の碑」を見た。架空の話とはいえ、生来見聞きしてきた山の辺の里や街道沿いの美しい風情のことなどを認識し直していた。

三州街道は古来信州と三河・遠江・尾張等を結ぶ大切な街道で、「中馬」等による荷物の輸送や塩の道として大切な役割を果たしてきた。「中馬」とは江戸時代当初田畑の作物を町へ運び、駄賃馬による

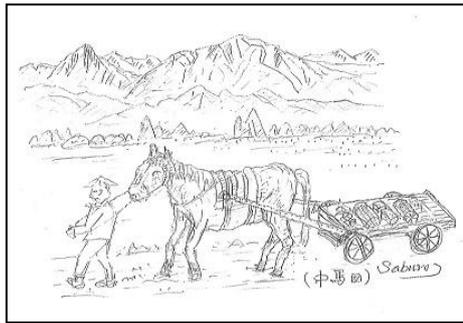
る運送手段でもあつた。その後商品流通に伴い、伊那・飯田を中心に事業化した(信濃路出版一九八五)といわれている。

子供の頃道路で遊んでいると、しばしば馬に曳かれた荷車が街道を往来していた。馬を曳くおいさんから「気をつけるよ!」と注意されながらも、友達と荷車へとび乗つたりして遊んだ。時には馬が突然立ち止り、長い尻尾をもち上げ「ボタンボタン」と馬糞を落とすのを見て、「馬のウンコだー」などと騒ぎ眺めていた。その後馬糞はその場で乾燥し、風に吹かれて散っていた。当時は誰もあまり気にしない「中馬」と街道の長閑な風情であつた。

その後は、伊那電気鉄道(国鉄飯田線)・街道の国道化・中央自動車道の整備など、物資等の輸送手段が推進されてきた。最近では甲州から南アルプスをぶち貫き南信州の飯田から尾張名古屋に達するリニア新幹線が計画されている。かつて「中馬」の行き来した

伊那街道は、居ながらにして二つのアルプスを眺望し得る「景観街道」でもあります。また周縁の山の辺の里人や訪れる人々が創り出す風情は、見事な「フィールドミュージアム」の場でもある。この先、このふるさとの自然環境を生かした人と栖(す)みか)の展開を切に念じるこの頃であります。

(防衛大学校名誉教授)



中村三郎「中馬」

### 明治は遠くなりにけり?

西村 与志木

二〇一八年は明治維新から数えて一五〇年。来年は改元(元号を変える)となることも決められており、明治、大正、昭和、平成と続いてきた近現代日本にとって新元号は新しい時代の区切りとなっていくのでしょうか。今年の大河ドラマは「西郷(せご)どん」です。幕末の薩摩・鹿児島が舞台となつて始まり明治一〇年の西南戦争で終わるわけですが、この時代には、私自身が司馬遼太郎原作のNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」を制作してきたこともあり深い思いがあります。それに加えて、ファミリーヒストリーというべき、歴史があり複雑な気持ちがあぐえません。

「戊辰戦争」といわれる明治維新での新政府軍と幕府側の争いのなかで、最終段階での激戦は「会津戦争」と呼ばれていいます。京都守護職であつた会津藩主・松平容保は尊王攘夷を旗印として掲げ幕府打倒を図る長州、薩摩と徹底的に対決しました。幕末のドラマによく登場する「新撰組」も松平容保の策によるものです。こうしたことから新政府軍、ことに長州薩摩軍の中には「会津だけは許さない」という激しい敵意で向かうものが多くいました。これが会津若松城落城、白虎隊自刃に至る悲劇につながっていくのです。

さて以前もこの稿で申し上げたかもしれませんが、会津の藩祖、すなわち会津藩の初代藩主は信州高遠藩から行った保科正之です。そのとき三万三千石の小藩から十六万石の大藩に転封(藩替え)となつた保科正之は連れていく家来が足りずに半農藩士であつた人たちを会津につれ行きました。その一人が私の祖先であつたのです。会津でも「高遠衆」と呼ばれ長く重用されたといえます。当然ながら「会津戦争」で戦死した若松城の



藩士の中にも白虎隊の中にも「高遠衆」の子孫はいました。そうした中で私が知り合った妻の父方の祖父は薩摩出身であり、遠い因縁でいえば会津と薩摩の関係で結婚したともいえるでしょう。

冒頭で明治維新から百五十年といいましたが、歴史の中ではほんの一瞬ともいえます。しかし戸時代には考えられなかった激変が百五十年の間に起き、それが様々な「出会い」を生んでいるともいえるのではないのでしょうか。

(元NHKエグゼクティブ・プロデューサー)

## ある美術館の終わり の記録

野溝 友也

「社会人でも夏は半ズボンの人もあるじゃないですか：そういう人だったらどうしようかと思っていました」というのが初めての会話だった。笑いながら「危なかった：」と思う。ディレクターは現場で目立て！という先輩の言葉を鵜呑みにし、いつもはラフで派手な格好が多い。夏は短パンで会議に出席することもある。この日も出がけに悩んだはずだ。それでも襟付きのシャツを着て、自分のワードローブの中では割とまともなパンツも選んできたのは何かの予感だったのだろうか。

こんな出会いの美術館と長い付き合いになるうとは、本当に縁は異なるもの：である。神奈川県立近代美術館鎌倉。終戦後まもない一九五一年、鎌倉・鶴岡八幡宮の入り口に開かれた、日本で初めての公立近代美術館。その美術館で

繰り広げられた歴史は日本の近代美術の歴史とも言えるだろう。二〇一六年春に閉館し、一部取り壊される様子を追ったドキュメンタリー番組を作ることになり、僕に演出の依頼が来た。冒頭はその打ち合わせでの主任学芸員との会話（もちろん僕が非常識なのだ）。

一応「芸術」と名のつく大学は出て、学位は「学士(美術)」だ。だが、基本時にテレビの映像はたけ「を歩んできて、アートとはあまり縁のない仕事をしてきた。取材しながら必死に近代美術を勉強したが所詮付け焼き刃。一朝一夕では太刀打ちできない対象だったが、なぜか取材に対する姿勢は気に入ってもらえ、番組はまずまずの出来だったと思う。その後も件(くだん)の学芸員や館長からアーカイブ映像の制作を依頼され、何度も通うようになった。文化施設が閉じるということはどういうことなのか：本当に貴重な体験を積ませてもらいながらの撮影。学芸員や職員、地域

住民も含め美術館に関わる人すべてから「愛」を感じる、幸せな時間だった。オワコンと叫ばれ、若手のなり手も減少傾向にあるテレビ業界。残念な話が多いが、こういう時にはこの仕事を選んでよかったと思う。

撮影がひと段落した今でも時々鎌倉には足をのばす。出向く際は襟付きのシャツを着て、長ズボンを着用するのは習慣になっている。

(テレビディレクター)



伊藤三千人「伊那谷風景」

## 妖怪の巢

原 克

もの言わぬ教師は、ときに多弁なものだ。

小学生の頃。近所の子どもたちと町を探検した。伊那小学校から坂下神社や路地裏。近所が主だった。

が、遠出もした。なかでも「ジジカイカン」は怖かった。爺ぢいの会館。大きな建物だ。子どもには、その名前ゆえ、なにやら妖怪が集う、恐ろしい巢窟くわくに思われた。

伊那市駅前からつづく、ゆるやかな坂道の途中に、それはあった。いかめしい幅広の石段に守られ、洋館風の玄関が高く、場違いな少年たちを、きびしく見おろしていた。

怖いもの見たさか。秘密を探ろうと忍び入った。

玄関フロアは、油のしみこんだ木の床で、ミシミシと重

い音を立てる。円天井はガラ  
ンとして高く、音が響いた。  
「気づかれたか」。少年たちは  
ちぢみあがった。

右奥に、広い階段が弧をえ  
がき、二階に続いている。階  
上で気配がした。

少年団は勇をふるい、のぼ  
つていった。

一段ごとに、広い部屋が見  
えてきた。曇りガラス越しに、  
いくつもの大きな背中が、黒  
いかたまりとなつて蠢いてい  
る。なにやら、おごそかな熱  
気すら感じられた。

妖怪たちの饗宴か。分から  
なかったが圧倒され、みな浮  
き足だつて逃げ出した。

洋館の正体を知つたのは、  
数年後のことだつた。ジジカ  
イカンではなく、正しくは自  
治会館。

旧館に代え、昭和二十五年  
に落成した公会堂であつた。

明治時代、市民の自治とい  
う新思想が、伊那谷にやつて  
きた。「自分たちのことは自分  
たちで決める」。そんな高邁な  
思想を、しかし、展覧会や催  
し物など日常的な活動を通じ

て、身につけてゆくためのみ  
んなの会館。自治会館とは、  
そうした場所だつたのだ。

いま思えば、ガラス越しの  
背中が、展覧会の来場者でも  
あつたか。

妖怪たちは、決して自治の  
大切さを、声高に説きはしな  
かつた。ただ寡黙なその背中  
は、後年少年たちが、自立の  
大切さをみずから体感する日  
が来るのを、時を越えて、じ  
つと待っていたのだ。

もの言わぬ教師は、ときに  
多弁なものだ。

(早稲田大学教授)



### 高齢者が元気で暮らすには

福澤 美喜男

昨年十二月に厚労省が発表  
した都道府県別の平均寿命ラ  
ンキングで長野県の男性は滋  
賀県に次いで二位、女性は四  
年連続の一位であつたが、同  
省が平成二十七年に発表した  
健康寿命では男性が十八位、  
女性は十六位であつた。なお、  
平均寿命は寿命そのものの長  
さを表すのに対し、健康寿命  
は医療や介護を日常的に必要  
とせず、自立した生活ができ  
る年月である。従つて、平均  
寿命から健康寿命を引いた年  
月。即ち、長野県の場合は男  
性が一〇、三年、女性が十二、  
九四年の年月を不健康な状態  
で生きていることになる。従  
つてこの期間を元気で過ごす  
か、考える必要がある。

とを表す数値である。次に低  
栄養になると痩せて筋肉量が  
減少し筋力が低下するため、  
運動機能、内臓機能や免疫機  
能などが衰えるため、転倒に  
よる骨折、食欲不振、貧血、  
肺炎などの病気に罹り易くな  
る。更に睡眠も重要であるほ  
か、年令と共に認知機能も次  
第に低下するなど高齢者特有  
の症状が現れる。従つて、高  
齢者が心身共に健康であるた  
めには、低栄養にならない食  
事を摂ることが最も重要であ  
る。平成二十七年度の国民健康  
栄養調査によると六五才以上  
で低栄養傾向にある割合は一  
六、七%、八〇才以上では二  
〇、三〇%であると報告され  
ていて、不足する栄養素はた  
んぱく質とエネルギーである。  
良質なたんぱく質を補う食品  
には動物性食品が好適である  
が、地域によっては入手が困  
難な場合もあるので、高齢者  
が陥り易い簡素な食事を補う  
食材としては魚の缶詰やハン  
バーグなどのレトルト食品を  
お奨めしたい。魚缶詰のたん  
ぱく質は栄養価も高く、油分

にはEPAやDHAなどの必  
要な成分が含まれている。ま  
たレトルト食品は温めるだけ  
で食することができるので高  
齢者には好適な食品である。  
以上、健康寿命を過ぎても  
元気で生活するためには、毎  
日の食事が活力源であること  
を意識して楽しい食事をする  
必要がある。

(東京聖栄大学理事長)



### 信州の夏休み

丸山 敬一

私は昭和二十年四月の国民  
学校入学なので、昭和二十年  
代が義務教育期間となる。信

州の夏休みは短く、七月三十日頃に始まり八月のお盆の終わった十七日頃には終了してしまつた。全体として二十日間ぐらいのものであつた。しかし、宿題は出た。信濃教育会作成の課題帳があり、毎年決まつて冒頭に「さあ、海に山に楽しい夏休みがやつて来ました」と書いてあつた。何と我々の実態と離れたことが書かれているか、と思つたものである。農業が今のよう

に機械化されておらず、すべてが手作業だつたので、猫の手よりはましな小学生の手でも十分に期待されて、夏休み中は毎日田圃や畑に出て汗まみれ泥まみれになつて働いた。「海に山に・・・」のところを「田圃に畑に苦しい夏休みがやつて来ました」と直してもらいたいのだと思つた。

上高地や志賀高原、霧ヶ峰など長野県にはすばらしい観光地がたくさんあると聞いてはいたが行つたことはなかつた（今なお行つていない所もある）。海を見たのは、西小六年生の時の修学旅行で弁天島か

ら太平洋を見たのが初めてである。農作業はいずれも辛く苦しいものばかりだつたが、中でも最も辛かつたのは田の草取りであつた。一番草はまだ除草車があり、稲の畝の間を押して歩けばよかつたが、二番草から四番草は、田の中に這いつくばり、水中を手でかきまわして草を取り、それをまゐめて土中に踏み込むという作業をくり返すものだつた。真夏の太陽は容赦なく背中を焼き、田の水は湯のように熱く、汗は目に沁み、稲の葉先は顔を突く、夕方になると蚊も来襲してくる、何とも苦しい作業だつた。夏休みが終り、学校に行くとき学校は何と楽しい所かと思つたものである。だから私は学校が大好きだつた。夏休みの短いのは全く気にならなかつた。私には登校拒否などという、その後顕著になる事態は、今なお全く理解できない。

（中京大学名誉教授・法学博士）

## 小沢川の思い出

御子柴 隆夫

私が小学校下級生の時ですから昭和十年代の前半の頃でした。当時の伊那町役場現在のセントラルパークの横の小沢川の川床（ゆか）に商店が数軒並んでいました。オモチャ屋、八百屋、食物屋等が並んでいたので。オモチャ屋には簡単なゲーム機が置いてありました。夏になると父に連れられて欠氷を食べながらゲームをするのが最高の楽しみでした。なぜか夏しか連れていってくれませんでした。

昭和十年代後半頃小沢川のその地点に川を塞ぎ止めてプールを作ってくれました。地元の人が土の入った俵を積み上げて作つたのです。それまでは水浴びは天竜川の二条橋の上と下で行っていましたが、浅瀬で流れが早くとても泳ぐと云うには程遠く水浴びと云うのが適切でした。ほんの二三年でしたが、自分の背丈より深い処で泳ぐことが出来ました。近所の人々には大変な努力だつたと思います。

お盆が過ぎると仏壇に進せてあつた食物などお供物をつくもに包んで船の形にして川に流しました。八月十六日の朝早く小沢川が天竜川に流れ込む浅瀬のあたりで天竜川の下流に向けて流すのです。いつも数組の人々がマンドを焚いた後川に向かって流す風景が見られました。お盆明けの月曜日から学校が始まるので

は途中の仙人峠まででそこからは徒歩だつたとのことで新入社員がまさに偏境の地に就職したものだと嘆いたそうです。

（元（株）IHJ副社長）



## 伊那市は憲法を守れるか

三沢 節夫

正月に咲く「星のしずく」がいつもより早く咲き始めた。この可憐な花は、日本と世界の難問題を早く解決して欲しいとせがんでいる。

東北大の憲法学者・遠藤比呂通さんは、大阪・釜ヶ崎で、多くの労働者が、誰にも助けられずに路上に倒れているのを見た。声をかけて「大学で憲法を教えている」と答えると「日本に憲法はあるんか」と反問された。大阪市は2007年、この地の二千人余りの住民票を本人たちの同意なしに削除した。遠藤さんは助教授の職を辞し、宣教師で弁護士として当地に赴き、憲法の代理人として行政と司法の権力と対峙した。その行動の原点は理屈ではなくて、信仰に従ったものだという。

いま、首相が日本国憲法を改定したいと公言している。しかし、憲法99条には「国務大臣はこの憲法を尊重し擁護する義務を負う」と明記されている。内閣総理大臣の身分として「憲法を改める」と表明することは最も重大なる憲法違反である。その日本では、7人に1人の児童が貧困家庭であるという統計データがある。OECD加盟国で、この高さは日本とアメリカだけである。この数値から、日本では数百万人以上の人びとが、憲法25条に保障された「健康で文化的な最低生活を営む権利」が奪われていると推定される。首相の言動には「守れないものは改変してしまう」という意向がうかがわれる。アメリカはもつと悲惨である。ビル・ゲイツ、ジェフ・ベゾスら世界のトップ8人の資産額は世界の総人口の低位50%の総資産に匹敵するといふ。この国で、トランプはアメリカ・ファーストを唱え、貧者の保険を潰して超富裕層自らに大減税をし、異教徒・移民・難民を排斥し、自ら武器商人となつて世界を歩く。彼の頭の中は「金もうけ」だけで、思想も理想も一かけらもない。さらに、彼のもとに真つ先にひざまずき、頭を垂れた日本の首相がいる。その余波で、次年度の日本の予算案では、防衛費が大幅に拡大する一方で、最低限の生活保護費が削られることになった。まさに憲法25条が泣いている。



(日本大学名誉教授)

わが愛する伊那市では、憲法はどう生かされているのだろうか。憲法第3章に列記された様々な権利がきちんと守られているのだろうか。ひとは、いくら個人で努力しても、病苦とか家族の状況などで収入が全く途絶えることがある。そのとき、憲法では国が守るべき責任があるが、それが果たされているとはいいがたい。そのとき頼れるのは自分の住む市町村しかない。どうか、伊那市では、すべての市民に対して、25条の生存権と、26条の教育を受ける権利が守られるよう最大限の努力をして欲しい。それが誰にでも愛される伊那市をつくる道である。

## 年頭所感

三澤 満



暖かいハワイから、伊那市の皆さんにお便りします。

測されています。こうした事情から、米国の投資環境は族群によりなりました。日本企業でも経営資源(もの、金、人)の米国へのシフトを検討されるケースが多々出て来ましよう。その方が、コンソリベースで収益力が上がるからです。

今年も米国経済は、好調に推移しましょう。トランプ政権による、法人税の35%から21%への減税は米国企業には朗報です。法人税の大幅減税は、レーガン政権下の一九八六年以来30年ぶりですが、過去の減税でも、経済が活性化し、かえって税収が増えていきます。また、企業の海外子会社からの配当課税も廃止され、これも米国企業には朗報です。米国企業は、これまで、海外で稼いだ利益を、課税逃れで海外に蓄積して来ました。この膨大な資金が、海外から米国に還流して来ます。これは新規投資にまわるものと推

測されています。こうした事情から、米国の投資環境は族群によりなりました。日本企業でも経営資源(もの、金、人)の米国へのシフトを検討されるケースが多々出て来ましよう。その方が、コンソリベースで収益力が上がるからです。

日本は、二〇一三年四月に始まったアベノミックスが、そろそろ出口論が出てきてもおかしくない時期になりました。現在は、超金融緩和での円安で企業業績はおしなべて好調、株高も応援して、表面上は辻褄が合っています。しかし、消費も設備投資も低迷しています。2%のインフレ目標は、とても実現不可能でしょう。

最近気がかりなのは、原油がバーレル当たり\$60と値上がりしていることです。かつて低い時は\$30高い時は\$100までありました。これが今後値上がりすると、円安もありガソリン代が高騰し、日本の庶民生活を圧迫します。消費は一層低迷しましょう。逆説

的には、円安も国民生活的には、ここらが限度と言えましよう。

日本企業の高い内部留保にも今年は議論が及ぶかも知れません。ドイツは15%の内部留保税を課しています。これは租税理論的には、法人税支払い後の収益への課税で二重課税となり、問題がありませんが、マイナス金利と言う異常な政策をやる国ですから、内部留保税が出てきても不思議ありません。

今年も、国内でも国際的にも種々の紆余曲折が予想されます。しかし、日本経済は、好調な米国経済に支えられ、大波乱は無く比較的平穩に推移して行くことでしょう。

(ハワイ大学経営学部大学院教授)



### 卒寿を迎え

向山 僚一

私は終戦後、岡谷工業高校を卒業してすぐ、親の許しも得ず東京に飛び出しました。新宿駅でみた風景は一面の焼け野原、遠く国会議事堂だけが残っていました。東京での生活を始めた当初、皇宮衛士隊として、陛下のお姿をお近くで拝したことや、故中村天

風氏の心を震わせるような声での講和が今でも心に残っています。若かりし私は新宿の拳闘ジムでボクシングを習いプロボクサーとなったり、墨田川沿いの材木問屋で住み込みで働いたりと波乱万丈の青春時代を過ごしながらも、教員免許を大学(明治大学と拓殖大学のふたつ卒業しました)でとり、埼玉県の中学校の英語や体育の教師を経て、その後はずっと東京都(練馬、大泉、保谷)で小学校の教師をしました。多くの教え子たちとの思い出はなによりの宝です。

父親ゆずりと思いますが、私は子どものころから絵を描くのが大好きで、教師の傍ら人物や景色を好んで描いていました。風景画は生まれ故郷の高遠藤沢村周辺の茅葺の家や山の景色のデッサンから始めました。その後、伊那/高

遠から見る仙丈や木曾駒、杖突峠から見る蓼科、八ヶ岳さらに信州各地へと取材し描き続けてきた次第です。日展にも2回入選し、縁あって一枚の絵のお世話になり、新宿伊勢丹で個展を40回もひらかせていただきました。信州の風景を見に来て下さった皆様は、ふるさとの訛なつかし

停車場の人ごみの中にそれを聴きにゆく先人と同じような思いをされたのかもしれない。現在、私の数々の作品の一部は高遠の歴史博物館、図書館、青少年の家などで展示されていると思います。

私も卒寿となりますが心はいつまでも青春、絵を描くペー—isはゆっくりになりましたが好きな焼酎とともに恥と頭は毎日掻いています。冗談は

さておき生まれ故郷の高遠、伊那がいつまでも美しい感動を呼ぶ景色を保ち、これからも多くの画家の心のふるさとでありつづけていくことを願っています。

(洋画家)

「高遠町荒町」



人生100年時代を迎えて  
100年時代のライフステージは伊那市へどうぞ

山北 一司



超高齢社会を私たちはどのように迎えればよいのだろうか。日本人の平均寿命は、終戦後の一九四七年当時は男性が50.06歳、女性が53.96歳だったが、二〇一五年時点では男性が80.79歳、女性が87.06歳までになった。同年時点での100歳以上の人口は約6万人、ところが35年後の二〇五〇年には70万人まで増加することが予測されている。まさに、人生100年時代の到来である。二〇一六年にリンダ・グラットン/アンドリュース・スコット両氏が『LIFE SHIELD 100年時代の人選戦略』(東洋経済新報社・池村千秋訳)という本を表した。同書によれば、いま先進国で生まれる子どもは、50%を上回る確率で

105歳以上生きる。一世紀以上前に生まれた子どもが105歳まで生きる確率は、1%に満たなかった。いま20歳の人は100歳以上、40歳の人は95歳以上、60歳の人は90歳以上生きる確率が半分以上ある——という。

同書が発刊された直後の二〇一七年一月には、日本老年学会・日本老年医学会が「高齢者の定義と区分」について画期的な提言を発表した。65〜74歳は准高齢者、75〜89歳は高齢者、90歳以上を超高齢者という内容だから驚きである。政府も内閣総理大臣を議長とする「人生100年時代構想会議」を発足させ議論をしている。

実は、これらの動きを見ていて、長寿県長野では人生100年時代を先取りしている方がかなり以前からおられるような気がしてならない。筆者が伊那文化会館の館長を務めていたときにも感じていたが、自然と気候風土に加え高齢者の方々の生涯学習活動がうまく機能し、学び、発表する循環

環が機能しているばかりでなく、学び、発表、鑑賞者等々がシェアされ、その輪が広がっていることである。このことは他都市と比べてもかなり先進的であると感ずる。

アルプスの山々と同様、高くなる葉を幾重にも重ねた、伊那谷の人々の生き方が日本人の範となるよう期待している。

本稿のサブタイトルは、伊那市への定住促進のキャッチコピーだ。願いを込めて。100年時代のライフステージは伊那市へどうぞ！

（芸術文化普及研究者・生涯学習上級コーディネーター）



## 二〇一八年の初春に思うこと

由紀 さおり

今、世界はどんな方向に向かっているのでしょうか。自分たちの未来は本当に明るいのかしら。

若い世代の子どもたちは何を信じて日々を暮しているのでしょうか。溢れる情報、日々のニュース、驚くことばかりです。

子どもの頃から先人の残してきた童謡唱歌に触れ、計らずも姉と歌うコンサートを続けて31年。

今年児童雑誌「赤い鳥」が発刊されて100年という記念の年となります。

美しい語感、たおやかな言葉の数々、アクセントに沿ったメロデー。

幼い頃に合唱団の先生から教えて頂いた事すべてとは言わないまでも、通用しない表現と不自然なアクセントの

曲が溢れているように思いますが。今を生きている身として否定はしないけれど、これからは自分の信じる道を貫くしかない！と決意した今年のスタートでした。

長野・伊那の自然に、ここ数年触れる機会を頂き、季節の変化は私を楽しませてくれました。感動に打ち震える風景、目に映る伊那の自然は私を裏切る事のない真実を見せてくれています。

この気候風土に育まれた人々との出逢いは、弱気になつていた私の心の支えになっています。ゆつくりと時間が流れ、匂を味わい豊かな毎日がこの伊那にはあふれています。ここに暮らしている方々には当たり前かもしれませんが、私にとっては本当に豊かなうらやましい場所です。

昨年末、親しくお付き合いして下さっている高田川部屋（元安芸乃島関）の餅つき大会に出かけました。大勢の応援団の方々が集まり、私もお餅つきに参加、帰りにのし餅をお土産に頂きました。幼い

頃、お米屋さんから届いたのしもちを「固くならないうちに切らなくちゃ。」と母が力を込めて切っていた姿を思い出しました。新年を迎えこのお餅が何とも美味しかった事。真空パックで一年中食べられる事は便利で重宝ですが、本当についたお餅の味を思い出して感動しました。こんな些細なことでも喜びを感じた私ですが、本当の味を知る伊那の方々にはあたり前の事なのでしょうね。

（歌手）

